

魏・晋・南北朝時代（後漢が滅び、三国が分立した時代から隋の統一までの約 360 年間の総称）

280 呉滅亡し三国時代終わる。晋が中国統一（西晋）都は洛陽。この頃日本に漢字が伝わる(285)。朝鮮半島には前 108 年頃に伝わった。

301 五胡十六国の乱始まる（→439）以後華北は約 130 年間に 20 に近い匈奴・鮮卑・氐・羌・羯などの胡族の国々が興亡する。

前凉（301-376）西晋の涼州刺史であった張軌、晋を裏切り建国。

前趙（304-329）南匈奴の劉淵が建国 成漢（304-347）代（315-376）

316 西晋滅亡。

317 琅邪王司馬睿（元帝）東晋建国（都は建康）中国は南北に分かれる（東晋・五胡十六国時代）

後趙（319-351）後趙第 3 代皇帝石虎に重用された崔悦（衛瓘・索靖の弟子）盧諶（鍾繇の弟子）

によって鍾繇・衛瓘・索靖等の書法が五胡の国々に伝わり、北魏書法に影響することになる。

前燕（337-370）冉魏（350-352）前秦（351-394）

346 百済建国

353 王羲之、「蘭亭序」 このころ日本は大和朝廷が国内統一（古墳時代）

356 新羅建国 この頃朝鮮半島は三国時代（高句麗・新羅・百済）

365 王羲之没？

366 年敦煌の莫高窟造営始まる。北方で写経盛ん。

376 前秦、華北統一 前秦から高句麗に仏教公伝

後燕（384-409）西燕（384-394）後秦（384-417）西秦（385-431）

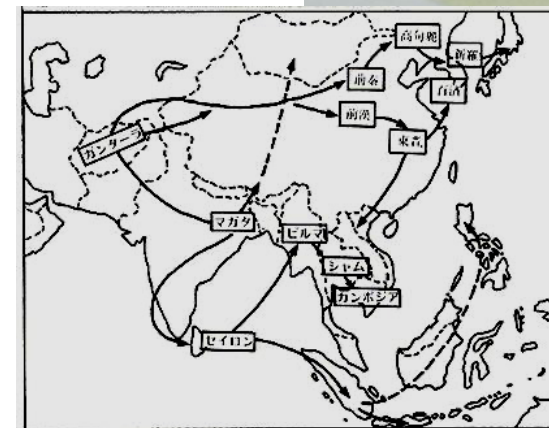
386 北魏建国（386-534）王献之没 384 年東晋より百済に仏教公伝

後凉（389-403）南凉（397-414）北凉（397-439）南燕（398-410）

西凉（400-421）夏（407-431） 414 年「広開土王碑」建立（高句麗）



東晋・五胡十六国時代



仏教伝来地図

4 2 0 東晋滅亡（第 11 代恭帝、劉裕に絞殺され、晋の皇族としての司馬氏滅亡）劉裕、宋建国（420—479）

4 2 2 敦煌は北魏の支配下におかれた。このころ（413—478）倭の五王が宋に朝貢し「安東大將軍倭国王」に冊封された。

4 2 7 陶淵明没

4 3 9 北魏が華北を統一（五胡十六国時代は終り、以後 150 年間本格的に南北朝時代が始まった）

4 6 0 雲崗石窟開鑿始まる。 ※北魏・東魏・西魏・北斉・北周の 5 王朝をまとめて北朝と呼ぶ（439—581）

4 7 9 （南朝）齊建国（479—502） ※宋・齊・梁・陳の 4 王朝をまとめて南朝と呼ぶ（420—589）

4 9 4 北魏洛陽に遷都 漢化政策実施（北魏の第 6 代孝文帝による）

4 9 5 龍門石窟開鑿始まる。

5 0 2 （南朝）梁建国（502—557）

5 2 3 北魏で「六鎮の乱」 513 百済の五経博士来日、儒教、日本に伝来（王仁が伝えたとすれば 4 世紀末）

5 3 4 北魏、東魏と西魏に分裂 538（552）百済から日本に仏教公伝

5 5 0 東魏北斉（550—577）に篡奪される。

5 5 4 「二王」の法帖が戦利品として西魏に伝わり、強い影響を与え始めた。

5 5 6 西魏北周（556—581）に篡奪される。

5 5 7 （南朝）陳建国（557—589）

5 7 7 北周により華北統一

5 8 1 隋建国（北周の皇室の外戚の楊堅が北周を篡奪して建国した）

5 8 9 隋の文帝（楊堅）南朝の陳を滅ぼし約 270 年ぶりに中国統一。

南北朝時代は終わった。南北の文化交流の開始。



南北朝時代（450 年頃）

征服王朝 漢化政策（中国化）

西晋の遺民が漢民族文化の伝道者になり、漢字が伝えられた。六朝楷書の源は、西晋の遺民が伝えた西晋の書蹟にあると思われる。5世紀末から6世紀初頭の期間が六朝楷書の最盛期だ。平城（今の大同市）から洛陽に遷都した北魏の第6代皇帝の孝文帝（467―499）は徹底した漢化を進めた。また仏教に深く帰依した。しかし急激な漢化は支配層の鮮卑族の不満をつのらせ長男の誅殺、「六鎮の乱」や北魏の分裂を招くことになった。

中華思想（中国）

漢民族の遠祖の呼び名である「中華」の由来は、洛陽盆地の西端、洛河の源のある山の「華山」である。

「中原」とは洛陽盆地を中心とした地域のことである。

「四夷」とは洛陽盆地（中華）から見た呼び名で、北狄（狩猟民族）・

南蛮（焼畑農耕民）・西戎（遊牧民）・東夷（低地住民）の

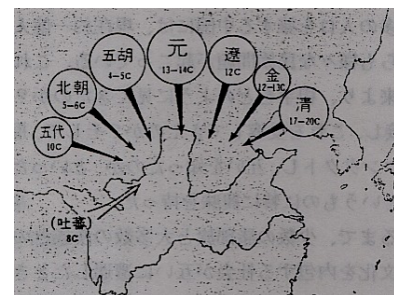
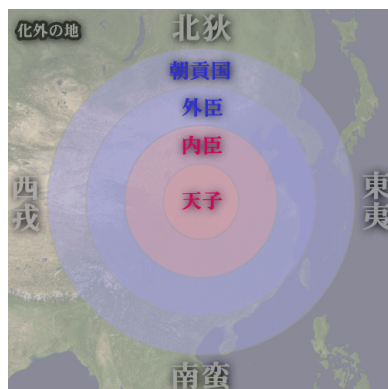
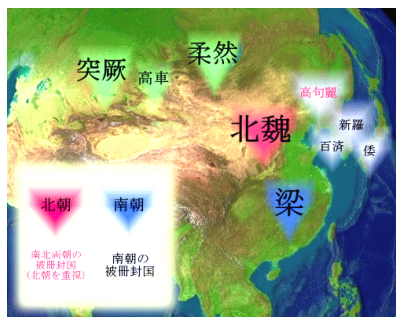
東西南北四つの夷狄のことである。漢民族は定住農耕民。

卑弥呼、邪馬台国、倭の奴 征夷大將軍、蝦夷

東アジア世界の完成期（冊封体制の完成・東アジア漢字文化圏）

南北朝時代には朝鮮三国は南朝から冊封を受けた。そのころ倭の五王も南朝より冊封を受けた。高句麗は北魏からも冊封を受けた。このころ南北両朝を頂点とする冊封体制が成立した。ここに漢字・儒教・仏教・律令制を特徴とする東アジア世界が完成した。その後、唐の滅亡により冊封体制が崩壊し、1895年の日清戦争によって冊封体制は完全に崩壊した。

漢民族・朝鮮・ベトナム・日本が漢字を用いてきた民族である。これらの国のある地域を東アジア漢字文化圏と呼ぶ。





朝鮮や匈奴は文

漢字文化圏の周辺には漢字の影響を受けた「契丹文字」「西夏文
ンゴル文字」「女真文字」「パスパ文字」「突厥文字」などの文字がある。
字を持たなかった。

今東州一存
一夫夫型先
天谷五長友
鑒勝生煥叔
尖山鑒月耐賦
尖助精鑒月
鮮斑斑雕
雕斑斑廊廊
鮮斑斑雕
雕斑斑廊廊

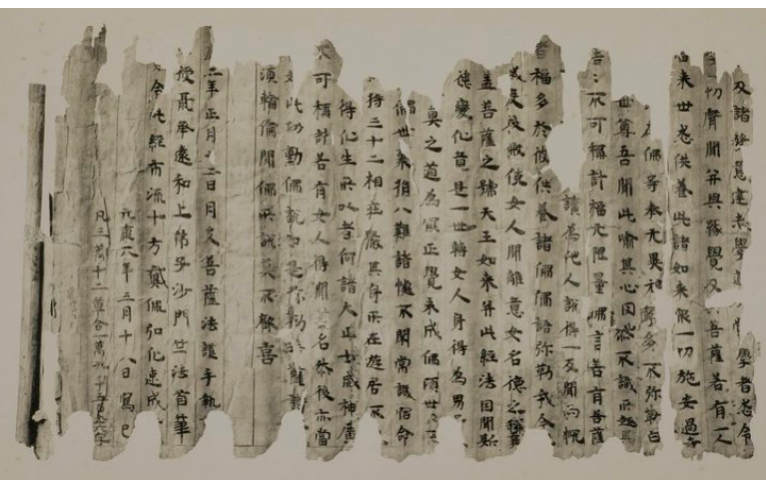
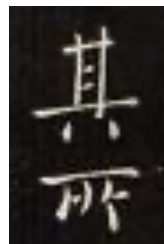
六朝時代（六朝文化）

建康（建業）今の南京を都とした、呉・東晋・宋・齊・梁・陳の六王朝を総称して六朝時代とよぶ。
呉の建国（222）から陳の滅亡（589）までの約360年間で、三国時代と南北朝時代にあたる。中原の伝統文
化が江南の風土・文化と融合して貴族的な文化の華が開いた。これを六朝文化とよぶ。
文学では東晋の陶淵明（365？―427）や宋の詩人謝靈運（385―433）がいる。陶淵明（陶潜）は六朝第一
の自然詩人・田園詩人といわれた。405年県知事になったが、「五斗米のために腰を折らず」とわずか80余
日で辞任した。このとき「帰去来辞」を作った。謝靈運は宋に仕えたが辞任し山水に親しみながら政治的
不満を詩で発散した。絵画では東晋の顧愷之（344？―405？）があらわれ画聖とよばれた。仏教が盛んにな
り道教が初めて国家公認の宗教となった。

隸書から楷書へ

五胡書法の用筆運筆法

「西晋の書」は「魏の書」を継承している。陸機（261―303）、後漢の張芝の姉の孫といわれる索靖、草書の名手衛瓘（220―291）、衛瓘の子の衛恒（252―291）などの書人が知られている。衛夫人は衛恒の従妹である。西晋滅亡後、後趙の石虎に重用された、崔悦（衛瓘・索靖の弟子）と盧湛（284―350・鍾繇の弟子）によって、鍾繇・衛瓘・索靖の書法が五胡の国に伝わったと考えられている。さらにそれは「北魏書法」に影響したと考えられる。



諸仏要集經 296・西晋)最古の仏典写経。23



×

道行般若經卷九（西晋）

天形善提薩隨波羅懃
 畢善提薩隨波羅懃
 坏實名異善提薩
 凡摩右自有教善提
 二月盛滿姝好善提薩隨
 照悉至善提薩隨波
 有字目无有廣而善提
 維惛波羅蜜本无形但
 以當如是波羅懃波羅
 羅蜜教當如是波羅

妙法蓮華經卷一（西涼・411）

除千二百羅
 式我今亦如

郎將使蜀權
 葛孔明不知吾
 卿行若山越都
 之義受命不

主簿

相

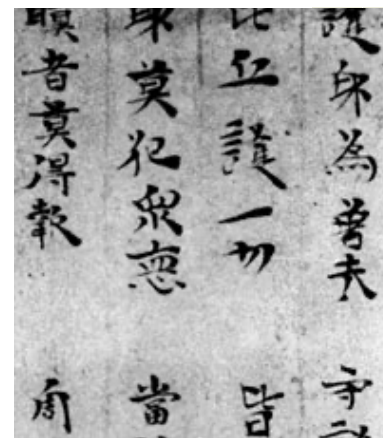
三十二
 何化生

不可

一



十誦比丘戒本（西涼・406）敦煌写本797号。五胡書法の典型。大英博物館蔵



「李柏文書」(328頃) 隸書より楷書へ
前涼の西域長史李柏より焉耆王に送った手紙の草稿。

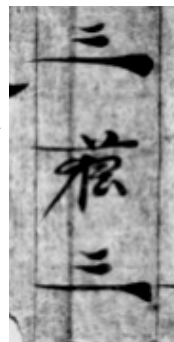


譬喻經 (前秦・359) 24 × 67 cm 五胡書法の典型。
焉耆国の書。台東区書道博物館蔵



※結構は水平で左軽右重。北魏の書に影響した。

優婆塞戒經 卷七より (六朝写経)



鄧太尉祠碑 (前秦・367) 隸楷 (楷書風隸書)





広開土王碑 (好太王碑・高句麗・414)



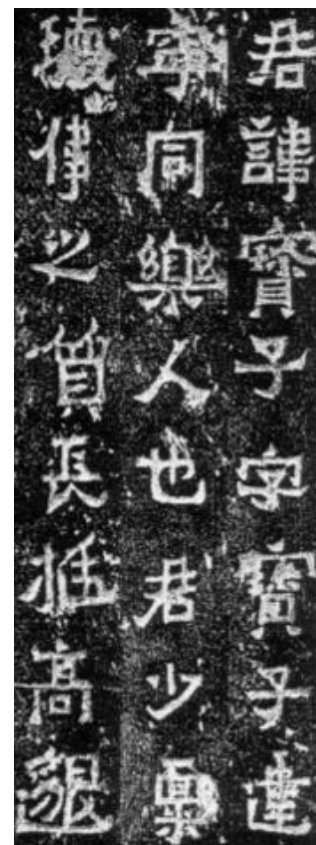
佛説菩薩藏經第一 (北涼・457)



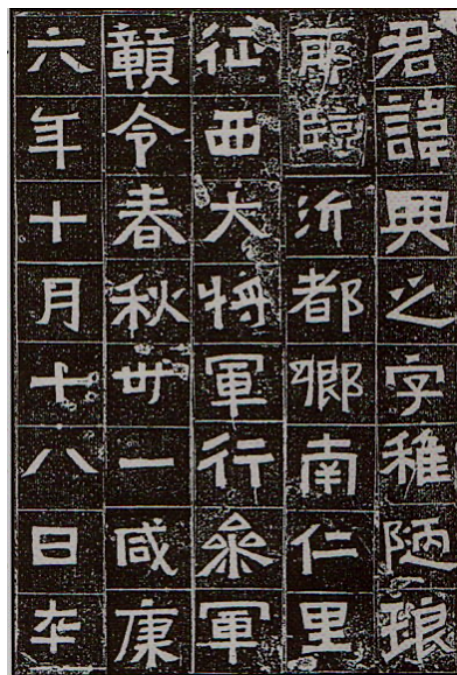
呂憲墓表 (後秦・402) 台東区書道博物館蔵



爨宝子碑 (東晋・405) 楷書的隸書。爨宝子の頌徳碑。装飾体。



王興之墓誌 (東晋・340) 王興之は王羲之の従兄弟。銘石体 (石碑用の書体) 楷書風隸書。



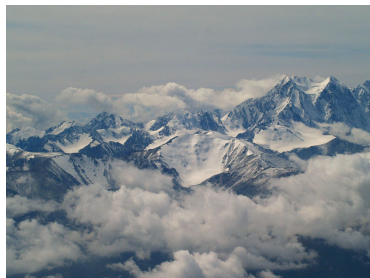
南朝の碑

爨龍顏碑 (宋・458) 隸意の強い楷書



西域

中国から見て西にある国々の総称。本来は東トルキスタン（今の新疆ウイグル自治区）をさしたが、次第に西トルキスタン（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの中央アジア五カ国のこと）から西アジア、インドまでをさすようになった。漢代に西方の記録が現れる『史記』『漢書』漢代の西の境界は敦煌の北西80キロメートルにある関所の玉門関と敦煌の南西約70キロメートルに置かれた関所の陽関であった。



中央アジアの新疆ウイグル自治区には中国最大の盆地のタリム盆地がある。総面積56万平方キロメートル（日本の国土面積は37万平方キロメートル）。その大部分はタクラマカン砂漠である。新疆ウイグル自治区の面積は日本の約4倍、中国全土の6分の1、人口は1600万人、47の民族が住んでいる。内約半数がウイグル族である。ウイグル族は元はテュルク系遊牧民だったウイグル人でウイグル語を話しアラビア文字を使う。タリム盆地の北には天山山脈、南側には崑崙山脈、西にはバミール高原がある。天山山脈の北にはジュンガル盆地がありその北にアルタイ山脈がモンゴルとの境界をつくっている。

「天山南路」は天山山脈の南麓にある。仏教東伝の道で、前漢の張騫や玄奘三蔵が通った道である。それは、敦煌から玉門関を通り、ハミからトルファンに至り、天山山脈南麓に沿ってクチャ、カシュガルを経て西方に至る。

「天山北路」はハミから西にムルイ、フーカン（阜康）からウルムチを経てイーニン（伊寧）からイリ川沿いに西進し中央アジアの草原、カザフスタンに至る。

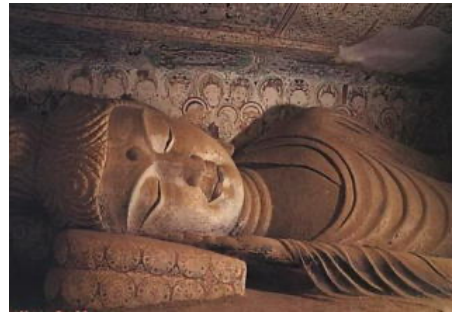
タリム盆地の南にある「西域南道」は砂漠の道で東晋の僧法顕が399年に、帰路の玄奘が、13世紀にマルコポーロが、20世紀初めにヘーデンや大谷探検隊が通った道である。それは敦煌から陽関を通ってロプノールの北側から楼蘭に達しタリム盆地の南縁を西進し、ホータンからカシュガルを経て西方に至る。またワハーンからインドへの道とローマへの道に分かれる。今は核実験場がある。（1964年～1996年までに、ロプノールの実験場で延べ46回の核実験を行った）



敦煌莫高窟
とんこうほくくつ

甘肃省敦煌の東南25キロにある。鳴沙山めいさざんの東に向けた断崖に掘られている。敦煌はシルクロードの要衝で仏教伝来の中継点であった。南北1.6キロの範囲に500近い石窟寺院があり、2400余の塑像と壁画が、10王朝10世紀にわたって造営された（4世紀～14世紀）敦煌石窟・敦煌千仏洞とんこうせんぶつどうともいう。前秦の支配下にあった355年ないしは366年に仏教僧の楽僂らくろうが彫り始めたようだ。五胡十六国から元代まで掘られたが、元代には寂れ、1900年の敦煌文献の発見まで忘れ去られてしまった。中国三大石窟の一つ。

※1900年、第16窟の壁の内側に第17窟が発見された。そこには、六朝から北宋代の数万巻の古文書、図画、教典写本などが天井まで埋めてあった。現在は隠したのではなく「ゴミ箱説」「紙捨て場説」が有力である。



雲崗石窟 うんこうせきくつ

山西省大同市（北魏の都の平城）の西方20キロにある。東西1キロわたる約53窟の石窟寺院。北魏の曇曜（どんごう）が460年頃に開始した。粗い砂岩質の石窟である。北魏第3代太武帝（たいふてい）の廃仏後の仏教復興事業として、先の亡き皇帝達の追善のために5万體以上の仏像が造られた。中国三大石窟の一つ。



龍門石窟 りゅうもんせきくつ

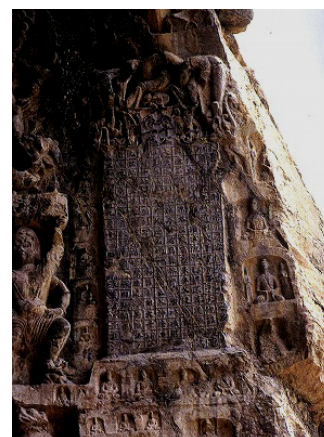
河南省洛陽市の南方13キロ、伊水（伊河）の沿岸にある石窟寺院。北魏の孝文帝が洛陽に遷都した494年頃につくり始められた。以後250年間に1352の石窟が約1キロメートルにわたり開かれ、その後約400年間に10万體以上の仏像が刻された。中国三大石窟の一つ。3600余の碑刻題記（造像記）がある。孝文帝は鮮卑人の旧都平城を懐かしむ貴族たちの不満をなだめるために雲崗石窟を模した龍門石窟を作ったといわれている。仏像の側らには造像の由来などが刻された造像記が作られた。長い間書は王羲之風が主流であったが、清代中期の学者阮元（げんげん）が北朝の文字を高く評価してから龍門の文字が広く学ばれるようになった。多くの造像記のうち北魏代に彫られたもののうちの特に優れた20点の拓本を集めて手本としたものを

「龍門二十品」といい、龍門石窟で最も早く（5世紀末）造営された「古陽洞」（このうやうどう）にそのうちの19品がある。唐の高宗時代（こうそう）が最盛期。褚遂良（ちよすいりやう）が641年に「伊闕仏龕之碑」（いけつぶつがんのひ）を書いている。



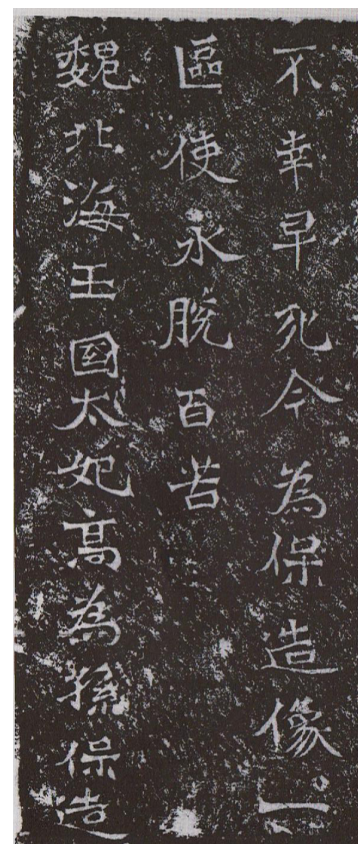


魏靈藏薛法紹造像記（北魏）



比丘慧成為始平公造像記（北魏・498）

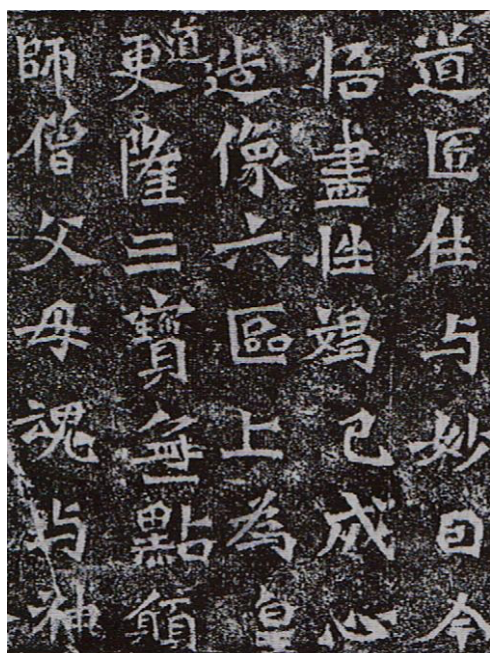
ほっかいおうくたいひこうぞうぎ
北海王国太妃高造像記（北魏）



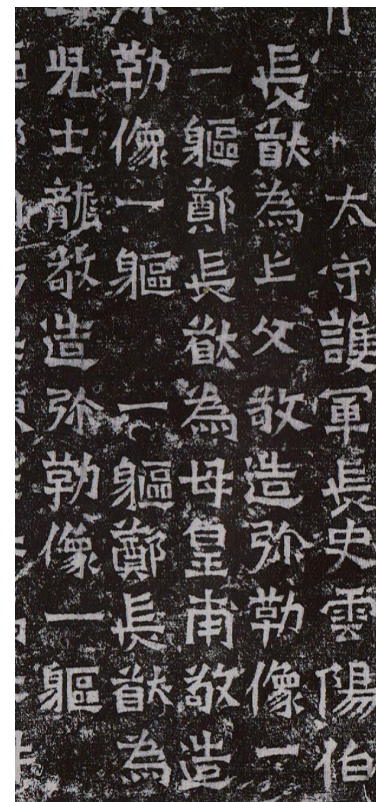
ようたいがんぞうぎ
楊大眼造像記（北魏・500頃）



ひくたうじぞうぎ
比丘道匠造像記（北魏）



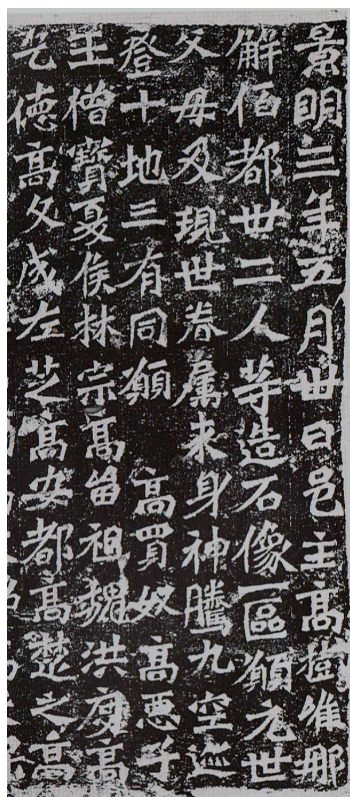
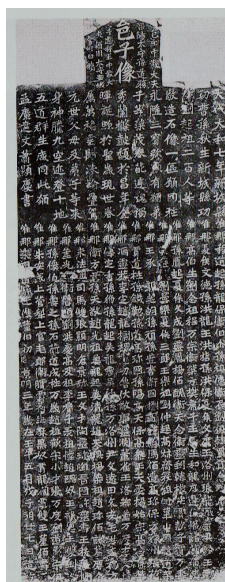
鄭長猷造像記 (北魏・501)



孫秋生劉起祖等造像記 (北魏・502)



高樹解伯都等造像記 (北魏・502)

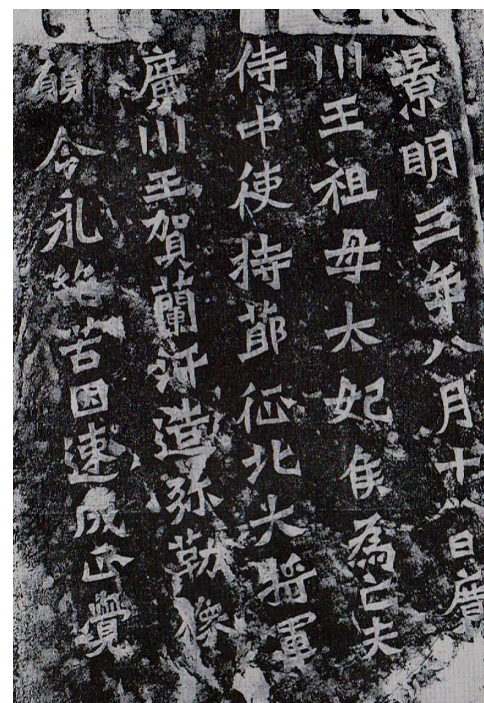




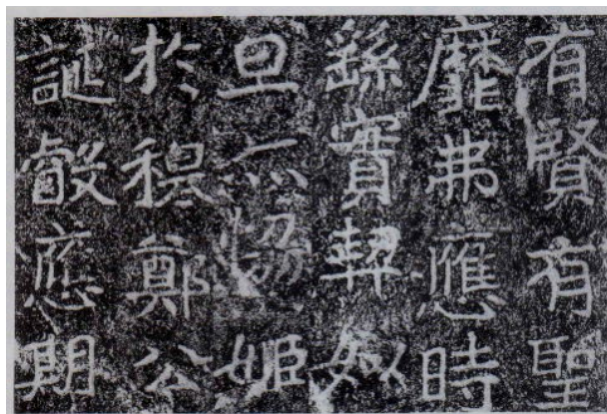
王元變造像記 (北魏・507)



広川王祖母太妃侯造像記 (北魏・503)



太妃侯為亡夫賀蘭汗造像記 (北魏・502)



ていぎかひ
鄭義下碑 (北魏・511)

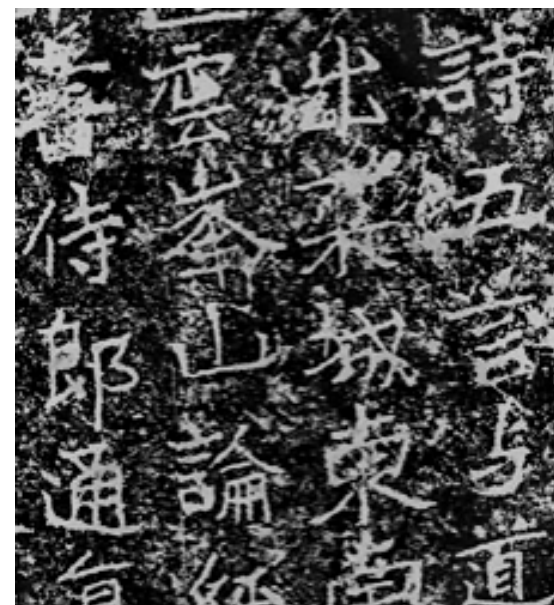


ちゆうがくすうれいびやうひ
中岳嵩高靈廟碑 (北魏・456) 隸意を帯びた楷書



ひくにじこうせいざうざうき
比丘尼慈香慧政造像記 (北魏・520)

ろんけいしよし
論經書詩（北魏・511）鄭道昭書。



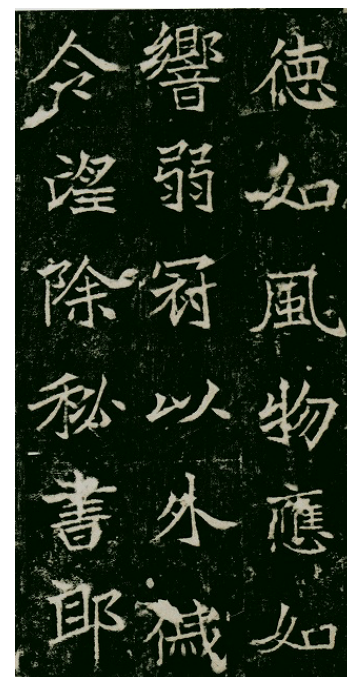
せきもんめい
石門銘（北魏・509）王遠書 石門摩崖の一つ。陝西省漢中市博物館蔵。



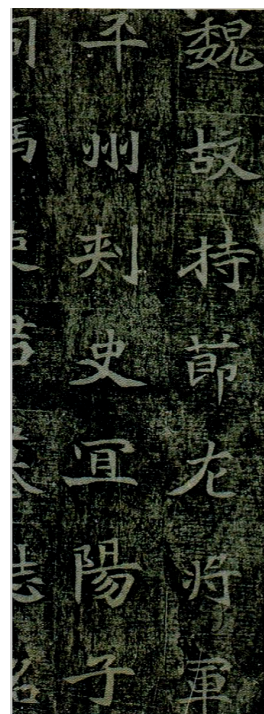
ちやうもうりちうひ
張猛龍碑（北魏・522）山東省曲阜孔廟。初唐の楷書の先駆。



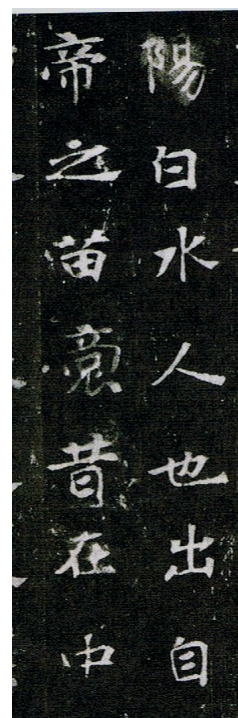
高貞碑（北魏・523）山東省德州出土。洗練され気品がある。



司馬昞墓誌（北魏・520）河南省孟県出土。司馬昞は司馬炎の末裔。



張玄墓誌（北魏・531）「張黒女墓誌」ともいう。何紹基旧蔵の拓本。



敬史君顯儔碑（東魏・540）河南省出土。初唐楷書の先駆。

